

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2020.3) 令和元年度:8.

A病院におけるがん患者の苦痛のスクリーニングの現状と課題

笹田 豊枝, 尾崎 靖子, 奥田 久美

## A病院におけるがん患者の苦痛のスクリーニングの現状と課題

旭川医科大学病院 腫瘍センター 緩和ケア診療部 ○笹田豊枝 尾崎靖子 奥田久美

### 【目的】

A病院における苦痛のスクリーニングの現状を明らかにし、課題を明確化する。

### 【方法】

A病院にて、苦痛のスクリーニングを開始した2015年9月から2018年3月までの期間に、院内統一の「からだや気もちの症状に関する質問票」(各スコア4以上を陽性)を用いて、がん患者を対象に実施した苦痛のスクリーニング実績を集計し分析する。

### 【結果】

苦痛のスクリーニング実施総数は述べ5453件であった。そのうち、2774件が陽性とスクリーニングされ、陽性率は50.8%であった。陽性とスクリーニングされた患者の8%は緩和ケアチームにつながっていた。また、陽性とスクリーニングされた患者は、身体的・精神的苦痛を表す10項目において、ほぼ全ての項目で陽性を示していた。

### 【考察】

苦痛のスクリーニングを実施されたがん患者の半数が何らかの身体的・精神的苦痛を抱えていることが明らかとなった。その内容は、身体的・精神的苦痛の10項目全てをほぼ網羅しており、全人的対応が求められることが示唆された。症状緩和のみならず、多職種による早期からの専門的介入が求められるが、苦痛のスクリーニングを活かして連携する体制は構築できていない。緩和ケアチームにつながった患者はいるが、基本的・専門的緩和ケアによって、その後の患者の全人的苦痛の評価を行う体制も構築されていない。苦痛のスクリーニングを活かした連携体制の構築が今後の課題である。